

# 総会盛り上げた若者・女性の力

## 同窓の訪れ

第56号  
編集・発行  
新潟県村上市飯野三丁目  
16番4号 奨学会館内  
新潟県立  
村上高等学校同窓会  
TEL (0254) 53-2779  
FAX (0254) 53-2779  
印刷  
村上印刷株式会社

### 総会出席15%増

村上高校の同窓会を如何に盛り上げていくかが最大の課題となっているが、関係者のご努力により年を追うごとに総会出席者が確実に増えている。平成十七年度の総会は前年度よりも15%増である。又、懇親会も三百人を軽く越え、「今年も、行けば誰かに会える」のキャッチコピーがみごとに生かされたのである。

### 当番幹事大活躍

平成十七年度の総会の当番幹事は「七」のつく卒業生であった。当番幹事は総会と運営の役員であり立役者でもある。当番幹事は十年に一度各学年ごとに回って来るが、その年の当番幹事の活躍が総会の成否を左右すると言っても過言ではない。

総会会場では当番幹事に全員腕章を付けてもらい、会場の世話方であることを明確に分かるようにし、受付、総会会場、懇親会場への誘導案内が円滑にできるような体制を整えた。

受付では現金も扱うことから、市内の金融機関に勤める同窓生に大いに活躍してもらったことも、



加藤幹司会長



講師 鶴橋康夫氏



吹奏楽部 演奏



ダンス部 華麗な演技

今回の特筆されることであった。総会は今回三百人に達するかどうか危ぶまれたが、熱心な当番幹事の呼びかけのほか、新たにポスターの掲示や看板の設置など、周知徹底に努めた結果延三七七人の同窓生を迎えることが出来た。関係各位のご協力の賜と深く感謝を表したい。

総会で加藤幹司会長は挨拶の中で会費の納入促進を呼びかけ、会員各位の協力を要請した。議案では新・旧年度の「事業・予算」が原案どおり承認された後、百周年記念事業の最終決算として「校史」の編纂を中心とする明細な報告があり、更に益田茂彦奨学会理事長よりかねて懸案の奨学会館用地の一部売却が完了した旨の詳細な報告もあった。

その後、恒例により母校生徒の吹奏楽部とダンス部の模範演奏・演舞が披露された。指揮者とピッチタリ息の合った見事な演奏と華麗で優雅なダンスは、日頃の練習の成果が遺憾なく発揮できた証だと思ふ。とても素晴らしかった。

### カルチャーションソックを与えた講演

講師 映画監督 鶴橋 康夫氏

総会が終了したところで待ちに待った講演が始まった。講師は第十回生の鶴橋康夫氏で、彼は中央大学法学部卒業後読売テレビのチーフプロデューサーとして活躍、数々の受賞に輝いている人である。

演題は「ドンドンヒヤララ・ドンヒヤララ、祭りの途中で」というタイトルであった。これは明治四十五年尋常小学校以来の童謡、「村祭り」という一節から取ったものだそうだが、彼らしい演題であったと思う。

講演は映像を兼ねてのものであった。映像の中では人間の深層にある赤裸々な欲望とは何か、光と影が交錯する画像に人間の情念を演出表現するものであったが、会場は極めて大きなカルチャーションソックを受けたようである。

残念ながらマイクの調子が悪く、よく聴き取れなかった点はお詫びしたい。彼は今後も映画監督として頑張りたいと言っていた。次の作品は日経新聞に掲載された「愛の流刑地」だと話していたが、今後も更なる活躍が期待されている。

### 盛り上がった懇親会

懇親会へのバスが出発する頃には激しい風雨になった。懇親会の会場は村高から十分位の距離にある瀬波温泉の大観荘であった。懇親会のみに出席する人のために、既に午後二時頃から会場に受付体制を整え同窓生の来訪に備えた。今年も三百人を超える盛大な懇親会となった。元村上市長の若林久徳氏の乾杯が始まった宴席は、会場の大広間が満杯となり入り切れるかどうか心配な位であった。懇親会は楽しく愉快な雰囲気でも盛り上った。どの顔も目が輝いていた。懇親会のフィナーレには、みんなでスクラムを組み、肩を左右に揺らしながら校歌を斉唱した。閉会の挨拶は次期当番幹事に当たる第十八回生の飯島久氏が「来年も元気で集うことを約束しよう。」と会を締めくくった。

制を整え同窓生の来訪に備えた。今年も三百人を超える盛大な懇親会となった。元村上市長の若林久徳氏の乾杯が始まった宴席は、会場の大広間が満杯となり入り切れるかどうか心配な位であった。懇親会は楽しく愉快な雰囲気でも盛り上った。どの顔も目が輝いていた。懇親会のフィナーレには、みんなでスクラムを組み、肩を左右に揺らしながら校歌を斉唱した。閉会の挨拶は次期当番幹事に当たる第十八回生の飯島久氏が「来年も元気で集うことを約束しよう。」と会を締めくくった。

講演は映像を兼ねてのものであった。映像の中では人間の深層にある赤裸々な欲望とは何か、光と影が交錯する画像に人間の情念を演出表現するものであったが、会場は極めて大きなカルチャーションソックを受けたようである。残念ながらマイクの調子が悪く、よく聴き取れなかった点はお詫びしたい。彼は今後も映画監督として頑張りたいと言っていた。次の作品は日経新聞に掲載された「愛の流刑地」だと話していたが、今後も更なる活躍が期待されている。



### 参加者の声

七回生 志田 洋子  
第十七回生を中心とした総会に至るまでの準備が大変だったと思います。

講演では、帽子をかぶったままサングラスをかけたままの鶴橋康夫氏の風貌と、舞台上に写し出される画面が新鮮で、楽しい時間を過ごすことができました。これからのご活躍を期待したいと思います。会場作り、部活の演技の姿から生き生きと活動している在校生の雰囲気を感じられ、心強かったです。ブラスバンドの伴奏で校歌を合唱しつつ、参加者の心が一つになったような感動を覚えました。

☺☺お会いできるのが楽しみです☺  
新潟県立村上高等学校同窓会「総会・懇親会」ご案内

### 「総会」

- 一期日 平成十八年十月二十一日(土曜日)午後一時から
  - 会場 村上高等学校体育館
  - 議事 平成十七年度事業報告・決算報告  
平成十八年度事業計画(案)・収支予算(案)
  - 部活公開 母校ダンス部・吹奏楽部(予定)
  - 講演 講師 雑誌「正論」編集長 大島信三氏(十二回卒)  
演題「マスコミ生活四十年の思い出」
- ―総会後ただちに、懇親会場にマイクロバス等で移動―

### 「懇親会」

- 会場 瀬波温泉「汐美荘」(午後五時開宴)
  - 会費 五千円 当日いただきます。
  - その他 アトラクション
- 「部活」「同期」別の席を設けます。  
出席の連絡は十月一日必着で「同窓の訪れ」に同封の「料金受取人払(後納ハガキ)」でお知らせください。  
懇親会後、十五名以上利用の場合、新発田までマイクロバスでお送りいたします。  
多数のご参加をお待ちしています。

同窓会会長 加藤 幹司  
役員・年次代表一同

十七回生 小田サダ子  
「昨年より、一人でも多く来てほしい。これが私たち当番幹事の願いでした。」  
十七回生は、村山誠さん、日下正平さんの音頭の下、久しく会っていない同級生に声をかけました。当日は三百名以上の方が集い、今年も、行けば誰かに会える。のスローガンどおり、同級生はもちろんですが、恩師や先輩などなつかしい方々にお会いでき、時が経つのも忘れてしまう程話がはずみました。

後日、「来年は友達を誘って私も行く」という方にも会い、同窓生の輪(和)が広がるのが母校の発展につながることを感じました。

十八回生 坂井 みつ(吉川)  
「いろんな人に逢えて楽しいから来なさいよ」と誘われ、卒業して四十年、

初めて昨年同窓会に出席しました。懇親会には三百名の方々が集まり若い方達も多く華やかに盛り上がっているテーブルもありました。部活席を見ると嬉しいことに登山部の先輩が居られ、久しぶりにお話が出来ました。そして、十八回生だけの二次会がありました。高校の頃とあまり変わらない方や、無口だった男子生徒が雄弁な会社役員に变身していたり。四十年の長さを感じながら遠慮のない会話に大笑いしたり。話は尽きませんでした。

今年の同窓会は十八回生が当番で、村上の役員の方々は出席される方々に喜んでもらえるよう頑張っておられます。

特に全国の十八回生の皆さん！同期会を兼ねて出席してみませんか。私も楽しみに参加させて頂きたいと思ふます。





村上高等学校同窓会  
会長 加藤 幹司

村上高校は創立以来百六年の輝かしい歴史を積み重ねていますが、その間学窓を巣立った卒業生は二万五千名で県下でも有数の規模と伺っております。同窓会は鬼籍に入られた方、住所が判明しない方を除く二万二千余名で構成され、会員の活動は日本のみならず広く世界に及んでおられるところ。しかし私が直接ふれる事が出来る会員数はこの中の5%にも及びません。このように、年に一度の『同窓の訪れ』を通じてより多くの会員にご挨拶できる事を大変嬉しく思います。

折角の機会ですから同窓会の現状についてご報告をさせていただきます。村上高等学校同窓会には(財)村上高等学校奨学会が付随しております。同窓会は会費で、



村上高等学校  
校長 村山 修

昨年同窓会総会はこれまでに多く多くの同窓生の出席をいただきました。役員の方々のご尽力により年々盛大な同窓会が開催されますことを嬉しくそして心強く思っております。

村高の生徒は明るく、素直、挨拶がよい、これは自他ともに認める所です。そして放課後には体育館やグラウンドから活気溢れる部活動に励む声が聞こえてきます。

大学等に進学する生徒が大部分を占める本校ですが、部活動に参加する生徒が八十パーセントと、高い率を示しています。とかくきついことや他人との接触で余計な

奨学会は基金の運用益で運営されていきましたが、奨学会は昨今の低金利時代で運営が行き詰まり預貯金や基金を取り崩して何とか維持をしてきましたが、ついにはそれも枯渇してしまいました。そこで会館用地の一部を売却し当面の運営資金を確保することが出来ましたが、更に村上市にお預けし会館と用地を地域のコミュニティホールと児童公園として解放する事で固定資産税を大幅に圧縮してもらいました。しかしこれとて万全の対策ではありません。手を拱いては十年後に又同じ状態を迎える事は明らかです。両組織の運営経費を安定的長期的に賄うには会費の納入率を現在の10%から20%に向上させる以外方法はありません。どうぞ二万二千名の会員皆様同窓会の窮状をご理解の上是非会費の納入にご協力を下さいますようお願い申し上げます。

神経を使うことを嫌う高校生が多くなっているなか、文武両道、自主自立、質実剛健の校風は、今も生徒の中に受け継がれています。

生徒の可能性を引き出し、自己実現を図ること。逞しさと思いやりの心を備えた生徒を育てること。社会に貢献できる視野の広い人間を育てること。これらのことを推し進めたいと私は考えております。

ところで、山北分校は昨年十一月、最後の卒業生と共に閉校記念式典を行い、今年三月に歴史に幕を下ろしました。これまで分校にお寄せいただいた数々のご厚情に對して感謝申し上げます。最後に、会員の皆様のご健康・ご活躍をお祈り申し上げます。ともに、母校に対するご支援を今後ともお願いいたします。

# 同窓会支部だより

## 仙台支部

全二十五回 本間 弘信

本年二月一日付で仙台支部が発足しました。支部長は暫定ですが旧三十九回生の小田吉二さんです。数年前から毎年忘年会の形で、卒業生が集まっていますが、支部として申請していたのですが、「支部として申請してみよう」ということになって、この度申請が受理されたものであります。まだ八名の小さな組織ですが、まだ何人か同窓生が仙台近辺にいらつしやるようなので、今後ご本人の了承を得て、メンバーに加わっていただくと思っております。



逆にお伺いします。この「同窓の訪れ」を見て、「私も仙台にいますのでメンバーに加えて」とおっしゃってくださるようなお有難いのです。(連絡先携帯〇九〇・九〇三七・九二六〇本間)

以下現メンバーを紹介致します。  
貝沼栄松 (旧三八回)  
奥村英策 (旧三九回)  
小田吉二 (旧三九回) 暫定支部長  
川崎賢治 (旧四〇回)  
峯木矩郎 (全 七回)  
佐藤良雄 (全十一回)  
本間弘信 (全二五回) 事務局長  
宗田雅彦 (全三二回)

## 中京支部

全九回生 大嶋 武夫

平成17年度の中京支部総会懇親会は、昨年10月23日ホテル・グランコート名古屋(金山)で開催しまし

た。ポストン美術館が隣接する30階「スターゲイト」からは、名古屋港まで展望できるという申し分ない会場でした。万博疲れが出たのでしょうか。出席は西坂誠三(旧中35) 浅川博(旧中46)、田中鈴雄(全4)、近藤俊夫(全18)、高俊次(全18)、佐藤一夫(全18)、本間雅行(朝日分校全5)。旧中のおふたりは大変お元気でした。



田中さんは、戦死されたお兄さんの形見という、古いハーモニカを持参され、「ふるさと」を吹奏されました。本間さんは初参加、いろいろな分野で活躍された先輩の話に大いに触発されたとのこと。

事務局の近藤さんはじめ、18回生には毎回ご苦労をお願いしています。参加者は限りなくゼロに向かっています。「同窓の訪れ」の原稿を依頼されるこの時期、まったく憂うつになります。本年度の総会懇親会も秋頃に予定していますが、案内状が届いたら、中京支部のみならず、一度でもいいから出席して、関東支部のように百名を超える偉業を達成してみませんか。

## 新発田支部

幹事長 全十八回 長山 忍

同窓会は同級会とまた違った趣がある。師や友と過ごした時期は違っても、日々記憶から薄らいでいく村上の情景や、校舎など思い思いの話に心が故郷に帰っていく。4月16日総会開催に向けての準備は、新米の

ためどたばたした。当日は学校長栗山修先生、奨学会理事長益田茂彦氏、事務局川村眞友美氏が快くご参加。会員27名の出席のもと議案は原案通り可決された。幹事・安心。

年に一度村上の地を訪れる今年の事業は、益田氏が村上商工会で実践の「村上の古利めぐり」に決定。大いに歩いて、寺からのお呼びを少し待つてもらおう。

総会後の講演は浦井廣作氏(全3回)の「村上藩のあれこれ」。昨年の「新発田藩」のシリーズとしても面白く、これだけはぜひ聞きたいというファンも多い。司会者の相沢節子さんは氏の「探求心」に感心しっぱなし。



最後の懇親会のご想像のとおり。恒例の校歌合唱は、恒例の長谷川久子氏(全11回)の指揮のもと学生のごとく歌い合った。私は歌詞の7割くらい暗記。

新発田支部の会員は現在約230名。支部会費納入者17年度80名余り。総会出席者18年度30名弱。多くの課題のなか、楽しい支部として発展するように皆で頑張りたい。

## 関川支部

旧中四十五回 伊東 正夫

同窓会では心が洗われます。「友と交るには須く三分の俠気を、人と作るには一点の素心を」(菜根譚)が今年の感想で、三月十二日「ますや旅館」にて、来賓平田大六村長、信金小田兼人、丹善弘正副支店長で盛大に語りました。

参加者は伊東正夫、加藤善吉、須貝富雄、菅原清、津野庄衛、佐藤貞治、阿部勉、中東征史、佐藤勝利、石山善一、伊藤保史、稲家誠、安久昭男、

近良平、渡辺衛、田村清洋の面々です。案内状から輸送まで「ますや」さんに依頼しました。

## 関東支部

全十九回 山下 治郎

六月十七日(土)東京四ツ谷駅前スクワール麹町3F金華の間において村上高等学校同窓会関東支部総会なごに懇親会が行われました。昨年度ご逝去されました益田紀雄副会長に替わりまして、小野安雄(全十回)尾崎茂(全十五回)の二名を新副会長に選任し本年度の活動をスタートいたしました。関東各地からの参加者百三十名に、本部からご参加いただきました村上高等学校校長栗山先生をはじめとして、大勢の来賓を加え活気あふれる運営を行うことが出来ました。

今回実行委員を担当させて頂きましたのは新制十九回生、子・丑年生まれの子の団塊の世代です。ご指名を受け昨年からの準備を始めて、総会にも二十三名参加し全員の協力で運営させて頂きました。

続く懇親会は故郷の銘酒「張鶴」の鏡割りのあと、旧制四十回生の富樫幹事のかくしゃくたる音頭による乾杯で開幕しました。



イベントのメインは自称「安富一座」音楽部OBによる歌の披露と大福引き会。歌声喫茶風のみんなで歌う

リクエストタイムを行いました。昔を思い出したりしながら楽しく、気持ちを一つにして歌うことが出来ました。曲にあわせてダンスをしていたりいたり飛び入りがあったり、福引きで二等を当てた方がお札に歌ったりと大変盛り上がりしました。最後にこの

- 同期世話役 倉崎 廣一(2) 清水 光男(2)
- 阿部 昌彦(4) 佐藤 忠(4) 南波 康二(5)
- 中山 渡辺(6) 尾崎 綱子(7)
- 明(6) 宗子(7)
- 伊藤 常治(9) 鈴木 初男(10) 大平 祐一(11)
- 渡部 昭夫(12) 飯沼 三太(13) 佐藤 寛司(13)
- 鈴木 茂光(15) 渡辺 美智子(15) 三田村 慶子(15)
- 山下 正平(17) 高橋 茂美(19)
- 山貝 荒木(19) 山貝 晃勉(20)
- 中山 正美(22) 飯沼 信彦(22) 飯沼 重勝(22)
- 西村 治(24) 中島 善夫(24) 瀬賀 功(25)
- 長谷川 伸次(26) 大滝 孝通(27) 齋藤 泰輝(27)
- 田辺 寛(29) 石原 孝男(30) 建部 昌文(30)
- 小杉 和也(32) 齋藤 武子(32) 須貝 かおり(32) 本保 真(32) 野球



会の司会を務めた元応援団長菅井さんの「エイエイオー」で会を締めました。

同期の十九回生が持ち味を生かした会の運営が出来たこと、お帰りの時に何人もの方から「今年の総会楽しかったよ。お疲れ様来年も又元気で会おうね」と声掛けいただいたこと感激でした。

関東支部の活動紹介ゴルフ同好会「臥牛会」

会長 川村 正(四回生)

昭和六十三年四月十四日埼玉県日高Cに村高関東支部のメンバーが集い産声を上げて十九年、今春四月二十日で二十七回を重ねてきました。会員の皆さんが参加しやすいよう春は千葉方面、秋は埼玉方面を原則として年一回、これまでに狭山CC、武蔵CC、石坂GC、大日向CC、東京よみうりCC、真名CCなど名門コース十七コースで開催、参加者延べ二七二名に及びました。(平均三二二名)。旧制中学卒業生から新制二十回生ぐらまでの方々若男女が集い、和気あいあい楽しく一日を過ごすゴルフコンペです。

ただ残念ながら年齢層が上つてきて参加者が減少傾向にあります。ゴルフを愛する方々山で白球を追って楽しい集いに参加してみませんか、お待ちしています。参加ご希望の方は、幹事 鈴木亮(九回生) 電話〇四七―四四四―五八三番 平山進(十二回生) 〇三三三四四二一六 九三六番まで連絡して下さい。

山北分校閉校実行委員会

菅原 寿

最後の卒業生二十二名を送り出し、去る三月三十一日新潟県立村上高等学校山北分校(開校時は大川谷分校)は昭和二十三年定時制課程としての開校から数えて五十八年の歴史に幕を閉じました。中学校



母 校 だ よ り

◆本校

平成十七年度も三月三日に二七一名の生徒が卒業し、同窓会に加えていただくことになりました。この卒業生の進路先の詳細については、進路指導部の報告をご覧いただきたいと思ひます。

さて、本校の近況ですが、少子化の傾向が進む中で昨年度から一学級減となり、平成十八年度は一、二年生が六クラス、三年生が七クラスという学級編成になりました。全生徒数は四月現在で七五七名です。

また、平成十五年度から始まった教育課程も、この春に初めての卒業生を出すことになりました。国立大学や新大の合格者数はおおむねこの数年の人数を維持していますが、専門学校に進学した生徒の割合がやや増えているという傾向があります。

学校としては、今までの授業展開や朝学習、放課後の補習などの在り方を再検討し、多様化する大学入試制度に対応した教育体制を確立するために、進路指導部を中心に全力で取り組んでいるところです。

部活動においても、あい変わらず多くの生徒が部に所属し、連日活発な活動を行っています。この春の各種大会では、残念ながら北信越

舎の間借りから始まり、徐々に施設整備がなされ、昭和四十八年には全日制課程第一回生が入学。昭和五十五年には、現在の位置に移転したのです。卒業生総数は千九百余名を数えます。

四月、この土地と校舎などの建物は、全て新潟県から山北町に譲渡されましたが、その一角には確かな証として閉校記念碑が建立されました。正面には、分校歌の一

◆本校

大会への出場権を得た部はありませんでしたが、弓道部の三年生の渡辺君が北信越国体の新潟県チームのメンバーに選出されるなど、大きな成果を上げています。放課後には吹奏楽の音色や運動部のかけ声などが響き渡り、部活に熱心な村高の伝統が脈々と息づいているのを感じ取れます。

市町村合併などに伴う学区の変更や学級減など、本校を取り巻く環境が大きく変化しつつあります。村上中等教育学校の一期生も、来年度は卒業学年を迎えます。このよう

な変化の中で、学校としては長い伝統が培った実績を踏まえて、進路指導面では国立大学・難関私立への進学率アップを目指し、保護者や地域の方々の信頼と期待にこたえていかなければならないと考えています。

また、生徒・職員の双方が切磋琢磨し、夢と希望を語りながら学ぶことができる明るく活力のある学校を目指しています。そして、将来、リーダーとして社会に貢献でき、世界で通用する視野の広い人間をさらにたくさん育てていきたいと考えています。

教職員一同、本校のなお一層の飛躍に向かって努力する所存です。同窓の皆様方におかれましても、ご協力とご鞭撻の程、よろしくお願ひいたします。

番、分校の銅板校名プレート・校章が埋め込まれ、背面には、山北分校の校風「雨滴精神」の源「点滴穿石」の言葉と沿革歴史が刻まれています。昨年十一月五日の閉校記念式典・惜別の会、閉校記念誌の発行と合わせて実施した記念事業の一つです。

山北分校の閉校を機に、「山北分校同窓会」も規約に規定されている活動の継続が実質困難なことから、経費的な精算を経て、役員は辞任し、その活動は停止しました。重要と思われる資料は、長年にわたりご指導、ご支援いただいた本校同窓会に引き継がせていただきました。本校同窓会に心から感謝申し上げます。

進路状況

進路指導部

【今春の卒業生の進路結果】

この3月の卒業生の進路状況は以下の通りです。国立大進学者は30名で、ほぼ昨年並みです。今年度も東北などの難関大学に合格しております。私立大進学者は102名で、昨年より若干増えました。しかし、昨年の傾向として早稲田などの上位私立大への合格者が出ていくようになってきました。短大は20名で昨年より12名減少しました。全

国の傾向としての短大離れが本校でも起きていたのではないかと考えられます。専門学校については70名でこの数年で最も多い状況となりました。特に女子の専門学校進学者が多く、卒業生全体の19.7%を占めています。分野としては看護医療系、次いでビジネス系が多いようです。大学・短大から実学を習得するために専門学校に進路変更したのが、安易な専門学校進学は望ましくないところではあります。一方、公務員・就職については、昨年同様好結果が出ました。公務員では昨年と同様同じく4名合格しています。特に、国家三種試験で外務省に合格した生徒もおります。民間企業においても、地元営業所を中心に4名の就職がなりました。

以上の状況をふまえ、今後の対策としては生徒の入学当初の希望を変更させないようすること、専門学校への

安易な志望変更をさせないこと、そのための学力向上等が指摘されます。

昨年にもふれましたが、現在の在校生は「ゆとり教育」の世代です。今までの生徒と比べると小・中学校で総合学習の時間を履修しているわりには「自己学習する力」が培われていないようです。すべての生徒がというわけではないのですが、自分で進んで参考書や問題集を購入し、自分なりの計画で学習するというよりは、教員が与えてくれる教材をあてにするのみで、自ら工夫して学習しようとする生徒が多く見受けられます。また、何事においても楽観的・利他的に考える傾向があり、幼稚な傾向がますます強まっています。結果、生徒は楽な方向へと流れて安易な進路選択をするようになってきているのではないのでしょうか。

本校は今まで伝統校として地元の信頼を集めてきました。忍耐と固い意志、物事に動じない強い心、つまり「堅忍不拔」の精神が本校のモットーでしたが、どうもその支柱が揺らいでいるように思われます。村上高校が今後も伝統校として存続していくためには、もちろん大学進学者の数を増やしていくことは大事ですが、何はともあれ自分で物事を考え問題を解決し、人に頼りきる事を善とし、かつての気概ある村高生の精神を生徒が取り戻すことが最も重要なことではないでしょうか。

運動部結果

県大会

バスケットボール部 男子 2回戦 5464―9980(新潟東) 女子 3回戦 5464―9980(三条商業) バレーボール部 男子 準決勝 0―2(東京学館新潟) 女子 準決勝 0―2(佐渡)

卓球部 シングルス 富樫心 1回戦敗退 宮本・久保組 1回戦敗退 笠原・菅原組 1回戦敗退 竹田朝香 2回戦敗退 矢部千鶴 1回戦敗退 竹田・須貝組 1回戦敗退 板垣・渡辺組 1回戦敗退

ソフトテニス部 団体 3回戦 0―2(巻) バドミントン部 男子 2回戦 0―3(長岡工業) 女子 2回戦 3―0(長岡) サッカー部 1回戦 0―3(長岡) 柔道部 男子 予選リーグ敗退 66kg以下級 板垣剛 2回戦敗退 予選リーグ敗退 48kg以下級 松本佳代 2回戦敗退

弓道部 男子 決勝トーナメント進出(ベスト8) 女子 決勝トーナメント進出(ベスト8) 剣道部 男子 予選リーグ敗退 空手部 男子 団体 3回戦 2―3(新潟) 女子 団体 3回戦 2―3(新潟)

陸上部 1500m 5000m 錦織哲 4x100m R 板垣・船山・近・中村 4x400m R 船山・中村・板垣・遠藤 準決勝進出

平成18年3月現在の進路状況

種別	国立大	私立大	国短大	私短大	専門学校	公務員	民間就職	浪人	その他	合計
男子	20	49	0	1	17	3	2	24	5	121
女子	10	53	6	13	53	1	2	10	2	150
合計	30	102	6	14	70	4	4	34	7	271
%	11.1	37.6	2.2	5.2	25.8	1.5	1.5	12.5	2.6	



平成17年度村上高等学校同窓会収支決算書

平成17年8月1日から平成18年7月31日

収入の部

Table with columns: 科目, 予算額, 決算額, 比較. Includes rows for 会費, 雑入, 寄付金, etc.

支出の部

Table with columns: 科目, 予算額, 決算額, 残額, 内訳. Includes rows for 会議費, 事務費, 人件費, etc.

Table with columns: 科目, 金額. Shows balance and interest for previous years.

平成18年度村上高等学校同窓会収支予算書(案)

(平成18年8月1日から平成19年7月31日)

収入の部

Table with columns: 科目, 本年度予算額, 前年度予算額, 比較増減, 内訳. Includes rows for 会費, 雑入, 寄付金, etc.

支出の部

Table with columns: 科目, 本年度予算額, 前年度予算額, 比較増減, 内訳. Includes rows for 会議費, 事務費, 人件費, etc.

(注)決算は7月末。総会が10月に延期されたことに伴い訪ねの発行も9月になり、その経費を繰り越すため繰越金が多額になっている。

掲示板

「百年史」残部あり

昨年、母校卒業生により刊行された「村上高等学校百年史」が若干残っています。B5判、八百頁の労作です。

販売価格、三千元(送料共) 申し込み、電話か「ハガキ」で。 十二月二十日までは、「フォト・スタンプ新潟」へ。

新潟県村上市天神岡381 (株)フォト・スタンプ新潟 電話0254(53)0600 FAX0254(52)4300

※申し込みハガキ記入例

Form for stamp application with fields for address, name, year, number of copies, and phone number.

「新潟県内高等学校同窓会会長有志懇談会」発足

一月二十一日(土)新潟ワシントンホテルを会場に「新潟県内高等学校同窓会会長有志懇談会」が発足しました。

伊藤事務局長が出席しました。同窓会の現状について「情報交換」がなされましたが、どこも「同窓会費」の納入率低迷に苦しんでいます。

わが同窓会でも現在全会員の10%しか納入されていませんが、

物故会員名

謹んで御冥福をお祈り申し上げます。(事務局に知らせていただいた方が主です)

Table listing names of deceased members and their dates of death.

草刈パーティー盛況

七月二十九日(土)「総会」「懇親会」に向け、常任理事会・当番幹事の合同会議が開かれ、その後、草刈作業に続き、午後五時過ぎから恒例となった「慰労パーティー」が開催されました。

総会・懇親会参加申し込み「後納ハガキ」で

一面の記事に報じたように、今年「後納郵便」による参加申込を採用しました。気軽に「申込」をしていただきたいことと、これまでの実績から約三百名の参加が予測されるからです。

事務局人事

平成十六年十一月から平成十八年三月まで勤務されていた伊藤初男さん、日下潤さんがご都合で退職されました。その後任として、川村真友美さんが入られました。